

日産車体九州、新工場の稼働開始式を実施

日産車体株式会社(本社:神奈川県平塚市 社長:渡辺 義章)の100%出資子会社の日産車体九州株式会社(本社:福岡県京都郡苅田町 社長:渡辺 義章)は、同日、日産自動車株式会社九州工場敷地内にある新工場の稼働開始式を行なった。



稼働開始式には、麻生 渡 福岡県知事をはじめとした多数の来賓とカルロス・ゴーン 日産自動車 CEO をはじめとした多数の関係者が列席し、行われた。日産車体九州の渡辺社長は「この新工場は、グローバル日産グループの中でも最新工場である。ここで『日本でのものづくり』を追求し、品質、コスト、納期の総合力でベンチマークとなる工場を目指して、チャレンジを続けていく。」と語った。

日産車体九州の新工場は、2007年2月に建設を決定、昨年4月に竣工式を行った後、試作を続けて、計画通り、昨年12月に、最初の車種として主に中近東向けの SUV「新型パトロール」の生産を開始、今年1月からは量産体制に移行した。

新工場は、車体館、塗装館、組立館と、日産車体九州の本社機能を持つ事務棟から構成されているほか、圧造、樹脂部品は、同じ敷地内の日産自動車九州工場から供給を受け、フレーム工場と組立工場の一部は既存の建屋を活用するなど、日産自動車九州工場との連携を図っている。建屋面積は、日産自動車九州工場の既存の建屋と合わせて75,500㎡となる。

新工場は、世界中の日産グループの中でも最新の工場であり、日産グループの「ものづくりのベストなやり方」の全てを工程計画に織り込んでおり、「日産生産方式(Nissan Production Way=NPW)を取り入れた Q(品質)・C(コスト)・T(納期)すべてでベンチマークとなる工場」を目指している。

Q・C・T それぞれの目標は、「Q: インフィニティブランドをはじめとする高級車の品質に対応した工場」、「C: 作業効率の向上等により徹底した効率化が図られた高いコスト競争力」、「T: 太く短い生産ラインの採用等により短縮されたトップレベルの生産リードタイム」としている。

また、日産車体では、従来から多車種混流生産を得意としているが、新工場でも、モノコック構造からフレーム構造の車種まで、さらにコンパクトカーからフルサイズの大型車までの混流生産が可能となっている。

日産グループの国内工場では、フルサイズの大型 SUV や大型ミニバンの生産が可能な唯一の工場である。

なお、「人と環境に優しい工場」も目標としており、環境面では、塗装工程の新技术の採用等により VOC 排出量を35g/m²、CO₂ 排出量も0.23t/台とし、世界中の日産グループの工場の中でもトップレベルとしている。

さらに、組立のトリムラインの難作業を20%削減(日産車体湘南工場比)、車体ラインの重筋作業を60%(同工場比)削減するなど、作業者の負担を大幅に軽減しているほか、太く短い生産ラインの採用により、生産にかかるリードタイムを短縮し、作業効率を15%向上させている。

新工場の塗装工程では、中塗り・上塗り工程を統合した3WET(スリー・ウェット)塗装に、新開発の中塗り塗料や、塗装機一体型エアシールド等の新技术を採用することで、CO₂ 削減等の環境対応を図るとともに、従来の3WET塗装では不可能であった高級車に適用できる塗装品質を可能にしている。

新工場では、昨年12月に生産開始した「新型パトロール」を、2009年度末までに、約5,000台生産する予定であり、2010年度には、国内向けのミニバン「エルグランド」、主に北米向けのミニバン「クエスト」、主に北米向けの高級 SUV「インフィニティ QX56」の生産開始を予定している。

これらの4車種を年間を通じて生産する2011年度以降、グローバルの自動車市場が回復し、年産12万台のフル稼働に移行できることを期待している。

新工場の従業員は、昨年12月の生産開始時点で約300名、今年4月時点で約400名を予定しており、2011年度以降、フル稼働時には、当初計画通り1,000名体制となる。

以上

[問い合わせ先]

日産車体(株)総務部総務グループ

電話0463(21)8001

URL: <http://www.nissan-shatai.co.jp>